

課題・研究期間・評価	GC/MSによるトータルダイエツト試料中のPCB分析法の検討 研究期間：H22～H23 評価：4（高く評価できる）	意見1	・試料（特に魚類など）のロット間の差異の検討も必要ではないか。また、各食品の健康リスクへの寄与率を早期に県民に周知してもらいたい。
		対応	・各食品群において、対象とする食品を広範囲に収集し、混合することで、ロットの影響を小さくしたい。この試料は、県民の平均的な食事に近いものとなるので、健康リスクを評価に用いることができ、結果は県民へ情報提供していきたい。
		意見2	・PCBにおける同族体の多くをGC/MSを使用することにより分離検出する技術を開発したことは、非常に高く評価されるが、さらに精度を向上させた分析方法の開発をお願いしたい。
		対応	・さらに、試料からの抽出法と測定法改良することで精度の向上を目指していきたい。
		意見3	・食材が多様であることから抽出や分析方法も多様化しているが、抽出方法により分析結果が大きく左右され、正しい評価ができるのかどうかの検証を行う必要がある。また、精度管理についても基準を明確にしておく必要がある。
		対応	・トータルダイエツト試料を用いることで広範囲の食材に適用できる分析法を検討することができると考えられる。測定のばらつきの評価を行うことで精度管理を行っていききたいと考えている。